

令和元年度第2回亀岡市子ども・子育て会議 会議録（要旨）

□ 日 時 令和元年12月25日（水） 午後1時30分～3時30分

□ 場 所 亀岡市保健センター 2階講義室

□ 出席者

委 員 安藤 委員、安田 委員、橘 委員、金田 委員、松原委員、
鈴木 委員、西山 委員、上田 委員、野々村 委員、石田 委員、
小野 委員、谷岡 委員、山本 愛 委員、山本 明 委員（14名）

欠席委員 中井 委員（1名）

事務局 こども未来部 11名（子育て支援課、保育課）
教育部 4名（教育総務課、社会教育課）

□ 傍 聴 1名

1. 開会

2. 委嘱状交付

・石野副市長より委嘱状の交付

3. 開会あいさつ

4. 委員紹介

5. 議題

（1）会長・副会長選出

・会長に安藤委員、副会長に金田委員が就任

（2）亀岡市子ども・子育て会議の概要について

・資料1に基づき説明（事務局）

（3）第2期亀岡市子ども・子育て支援事業計画（案）について

・資料2～5に基づき説明（事務局）

6. 意見交換

□ 要 旨

・資料全般に関する質疑・意見交換

【委 員】46 ページの一番下の「外国につながる（ルーツを持つ）子どもへの支援」について、国は「外国籍の子ども」と表現していなかったか。統一したほうがいいのでは。

【事務局】当初は外国籍としていたが、国の指針では「つながる」というような表現があり、庁内の意見照会においてもルーツを持つという意見もあったので、このような表現にした。

【委 員】それなら結構。それから、36 ページの「保・幼・小・中の連携」で、取組内容には認定こども園があるが、取り組むべき項目の表現にないので、「保・幼・こ」としてはどうか。

【事務局】 そのように修正する。

【委員】 2点お聞きしたい。1点目は32ページの「かめおかつこ出前ひろば事業」で、保育所（園）・認定こども園・幼稚園がない地域とあるが、ない地域とはどのような概念で開催するのか。もう1点は、42ページの保育所（園）などの広域入所の整備の関係で、これは主に里帰り出産の対応等で利用希望のケースが多いと思うが、受入れ先の調整等、実施の現状を教えてください。

【事務局】 1つ目の「かめおかつこ出前ひろば事業」は、亀岡市社会福祉協議会に実施していただいている。地域資源が少ないところで実施していただいている。

【委員】 そもそもひろば事業は保育所（園）等が実施しているが、「かめおかつこ出前ひろば事業」というのは、現在、図書館の3階や穂田野地区、西つつじヶ丘地区で主に行っている。家の近くで居場所が見つかりにくい親子に主にアプローチして、主任児童委員、民生児童委員、子育て支援員の保育所の先生等地域の人たちにも協力いただき、予約なしでも親子が楽しめるように実施している。保育所のある地域は、保育所でひろば事業を実施しているので、保育所の先生とも内容等情報を共有して実施している。

【委員】 移動手段がなかなかない小さい子どもさんのいるお家のお母さん等に対して、出前ひろばを実施するということか。

【委員】 スタッフが、おもちゃや材料を持って行き、その場所でその日限りの出前ということで実施している。その時に、地域の方が知らせて参加する方を連れて来ていただいたり、今まで知らなかった親が参加したりなど、今まで見えなかった地域の様子も把握することができている。

【事務局】 計画の記載表現については少し見直しを行う。

【事務局】 広域入所の受入れ等の状況については、里帰り出産や勤務地などの関係で認めている。数字について、詳細はすぐには出ないが、亀岡市在住の方で市外での受け入れは6件程度、亀岡市内での他市の方の受け入れは10件弱程度あるところである。

【委員】 前回の子ども・子育て会議のときに、リアルな見込み量が11月以降にわかるということで提示をしていただき感謝する。10月からの無償化の影響により、無償化前のニーズ調査の結果とは、数字も変わってくると思うので、またタイミングを見てニーズ調査のデータを取っていただき、我々も勉強して活用していきたい。また、この資料で保育所、幼稚園、認定こども園等の区分で、幼稚園について私学助成園を（私助）と書いていただくと、私学助成園のニーズや関わっている項目がわかりやすいのではないかと。それに関連して、67ページの「6. 子育てのための施設等利用給付の円滑な実施の確保」の中で新制度未移行と書いてあるが、ここにも私学助成園と書いていただくとありがたい。また、42ページの基本施策2の中の保育所（園）などの適正配置の考え方についてお聞きしたい。現在、法律が3つに分かれていて、保育所と認定こども園制度、私学助成園制度が混じっているため、市民の方から見て、どこがどう違う

のか、特徴等も見えづらいので、そこがわかれば、より自分の子育ての方向性に合ったところが選べるのではないか。今、私学の幼稚園全体では、働いているお母さんが約3割を占めている。また、適正配置の考え方で、私学助成の幼稚園を建てるときに、近隣の幼稚園の同意が必要ということがある。今回、認定こども園を2つ設立するにあたり、保育と私学助成では違う部分もあるが、そのこともご理解いただきたい。人口、とりわけ子ども人口が減少していく中で、施設の適正配置についてどのように考えているか。亀岡市は盆地であり、広い範囲から利用されているということについては理解しているが、一方で、国の示す適正配置の考え方、それに対する亀岡市の考え方をお聞きしたい。

【事務局】見込量の見直し等については、第1次計画と同様に、ニーズに対応して、中間見直し等で随時見直ししていきたい。67ページの記載等については、あくまで新制度に移行しているか移行していないかということで記載させていただいたが、私学助成園という記載については、検討させていただきたい。

【事務局】最後のご質問の適正配置について、国が示す適正配置は待機児童がないという状態を目標にしている。亀岡市においても、0・1・2歳の保育ニーズの増加に対応することが適正配置であると考えている。

【委員】適正配置に向け、その施設に対してニーズがあるかどうかを踏まえ、市が調整することも必要と考える。保育施設については事務局の言う通りだが、新制度に移行した幼稚園では、保育のニーズ、施設に対するニーズ、園の存続を含め対応することが求められる。

【委員】42ページの取り組むべき項目の「待機児童の解消に向けた取り組みの推進」で、追加を検討していただきたい項目がある。待機児童の解消というと、施設とか保育士等の人の数ということが話題になるが、国の人材確保に関するシンポジウムなどでは、資質向上を同時に進めていかないと待機児童の解消につながらないと言われている。就職をしても、研修などを継続して行わないと3か月とか1年未満で辞めていくというようなことになり、一旦は待機児童の解消ができて、継続的につながらないということで、この項目に、職員の資質向上に関する研修等を入れてはどうか。また、人材確保の取り組みについて、「研修の機会を設けるなど」の「など」に含まれるとは思いますが、保育士や幼稚園の先生以外にも事務資格の方や障がい者雇用などの人材確保、掃除ロボットなどの機械使用も含めて間接業務を減らすことで、結果的に有給休暇の取得や継続雇用につながり、新たな就職先として、また、近隣からの人材確保にもつながるのではないかと考えられるので、より具体的な表現として検討していただきたい。

【事務局】今のご意見をお聞きし、亀岡市でも若手保育士への巡回支援事業など、一部取り組んでいることもあるので、記載の表現等についても工夫していきたい。

【委員】今回から青葉学園さんがお見えなのでお聞きしたいが、いわゆる深夜保育などの子育て短期支援事業を児童養護施設でやりなさいと国は以前から言っており、亀岡市が青葉学園さんを利用するのは当然わかるが、他の綾部市や南丹市などがどの程度利用されているのか、横のつな

がりはあるのか。元々ショートステイなどのための施設ではないので、調整が必要になると思うが、この計画を考えるうえでも参考になると思うので、その辺りの事情を教えてください。

【委員】今、亀岡市のほかには、南丹市や京丹波町、能勢町で委託契約をしていて、長岡京市からも話をいただいている。しかし、実際の利用としては、亀岡市の方の利用が多く、月に1回か、2か月に1回程度の利用をされている状況である。現在、青葉学園においても一時保護やショートステイの子どもさんだけを預かる場所も建設中であるが、措置入所の子どもが多いと、ショートステイの話があっても断らないといけない状況になっている。それに加えて、保育士等職員の人材確保の問題があり、職員の数が足りない引き受けられないという現状もある。

【委員】児童養護施設となると、亀岡市の青葉学園より北となれば舞鶴市になり、その間にはない。だからどこまでこちらに入ってくるのか。受け入れてもらうところは、児童養護施設を緊急避難的に利用しようということ国が定めた。施設の数が多ければいいという話ではなく、少ないにこしたことはない。ただ、今もあったが、結局のところ人手不足では前に進めないという状況があり、ここに出てこない大きな問題が潜んでいると思う。

【委員】66ページの最後の今後の方向性で、「今後、新規事業者の参入があった場合には、事業の導入について検討します。」とあるが、これから多様な運営主体が参入されると思う。大津市の園児の事故の件で、園庭を持たない上に、あの道を年間、何十回、何百回と渡って遠足に行っていたという保育計画が気になった。民間の参入については、亀岡市が安全面や中身などのチェックをするのか、それとも京都府の保健所がするのかを聞きたい。それと、導入後の安全面等をチェックするための尺度がかなり難しいのではないかと思うので、このような機会に、どのようにして亀岡市オリジナルで子どもたちが健やかに最低限の安全面を確保していくのかということは何となく検討いただきたい。それといろいろな理由から少子化を止めるのは難しいとは感じているが、少なく産まれてくる子どもをどのようにして健やかに育てていくかが大事で、大切に育てられた子どもが、自分も家庭を持ちたい、子どもを持ちたいというように考えられれば、少子化対策につながるのではないか。また、今後、父親がどのようにして子育てに関わっていくのが課題だと感じているが、実際にどのように子育てしたらいいかわからないというお父さんも多く、できれば座学、ワークショップという形よりも実際に小さな子どもと関わる機会を増やしていただけるような研修を増やしていただき、また、企業の代表者にもこうした会議に参加していただき、話をする機会を作っていただきたい。

【委員】保育人材の確保については、地元で大学や短大の卒業生はいるが、亀岡市で就職してくれる人がいない。施設はあるが、職員がいなため、入所をお断りしているような現状もある。47ページの子どもの人口の推計から、子ども人口が減少していく中で、今後施設側の運営も厳しくなってくると思うが、定員数の減少なども含めて、時代に合った運営を行っていく必要があると考えている。

【事務局】只今のお話について、確かに将来の子ども人口は減少していくと想定されるが、ニーズは増加の見込みとなっているので、利用定員は維持していきたい。そのためには保育士の確保が大

きな課題と考えている。具体的なことは、今後検討していきたい。

先ほどの民間参入についてお話しいただいた件については、安全に対して十分確保するようにとということであったので、実際に事業の参入の相談があった場合には、ご意見を受けとめてしっかり対応していきたい。

【委員】認可保育施設、認可外保育施設で、園庭がない保育園が交通量の多い道路を頻繁に渡って園外に出かけるというようなことは、気になることであり、そういったところは行政文書だけではチェックできないので、そういったところを見ていただきたい。

【事務局】京都府に届けのある認可外保育施設については府で、認可保育施設については市で、安全点検を行ったところである。

【委員】おそらく道のところだけだと思う。交通量の多い道を何回またがせているかとか、年何十回、何百回というのは問題ないのかというようなことも含めて、重要なことではないかと考える。

【事務局】今後、亀岡市としてできることがあるかも含めて考えていきたい。

【議長】ほかに特にご意見等ないようであれば、議題内容当について皆さんのご理解を得たものとして、これを持って本日の議事を終了する。

7. 連絡事項

8. 閉会